



# 通信

電話048-480-4150

2019年7月31日発行



『若年認知症カフェ』（仮称）が昨年の10月10日に開店して、今年7月10日で6回目となりました。「ゆっくり、じっくり」その場に集う方々と大切に育てています。

このカフェでは 当事者の方たちが、ウェイター、ウェイトレスとしてカフェを支えています。最近では、一仕事終えたウェイターさん、ウェイトレスさんが、思い思いのテーブルで「お客さん」と話しこむ姿が見られるようになりました。ここでは、認知症がある人とそうでない人の壁が壊されつつあるように感じられます。

名前のなかったカフェですが、若年で発症した方ばかりでなく、認知症がある方々誰でも参加できるように、『第二認知症カフェ・えんの森』としました。6年目に入った毎月第三水曜日に開催している『認知症カフェ・えんの森』は、誰でもなりうる病気である認知症を地域の方々に理解してもらうことを目的にしていますから、セカンドステージでは、一人ひとりが輝けるように！

『第二認知症カフェ・えんの森』では、カフェを手伝ってくださる認知症の方を募集しています。詳しくは暮らしネット・えんまで。



Tel: 048-480-4150 担当：吉村・小島





## 活動目標は『介護保険利用料が倍になる！！』のを防ぐこと

今、7月中旬、ここ数年の猛暑と打って変わった梅雨寒が続く毎日です。酷暑も困りますが、日照不足で作物の出来も悪いのも困ります。「ちょうど良い」暑さは望めないものではないでしょうか。この通信がお手元に届く頃にはどうなっていることでしょうか。

さて、6月16日に第17回定例総会が無事終了しました。毎回分厚くなる総会議案書は、ページ数を更新し84ページになりました。それだけ報告すべきことが増えていて、議案書作成は法人上げての大仕事です。残部がありますので、興味がある方はご連絡ください。

ここ数年決算状況は好調が続いているので、なぜなのか振り返ってみました。すると、収入を伴う事業が出揃った2013年度から5年で職員が31人増えていました。最も採用が多かったのは始まって間もない食事部門の「えんの食卓」ですが、稼働時間が短い配達担当はリタイアした男性や子育て中の女性などが担ってくれています。若い世代は数年後にはヘルパー資格を取得して訪問介護と兼務するようになった人も。ケアプランえんは、障がい者の相談支援事業が加わった上に介護保険のケアマネジャーも増えたため人数も収入も増えています。新しく入ってきた職員がほぼ離職していないのが好調の要因でしょう。他には特段何が幸いしたといえる要因は見つかりませんでしたから、みんなでコツコツ努力した結果が数字に表れたということでしょう。また、5年目に入った『認知症カフェ』や3年目の『だれでも食堂』などを通じて、「介護」事業とは別の入り口からえんと繋がる地域の方々が増えたことも支えになっているように思います。

そして今年度の重点事業は、まず昨年度から持ち越しの多機能ホームまどかの増改築。床の間や欄間がある懐かしいたたずまいの古い木造家屋で、利用者さんからも親しまれています。けれども開設から12年、利用者が順調に増えた結果なのですが、人が増えて落ち着かない日が増えました。今年度いっぱい準備を進め、来年度には着工の予定です。

何より差し迫っているのが、介護保険利用料の一律2割化です。ケアプランも有料化が検討されています。今は所得に応じて1割、2割、3割に分かれています。標準を2割に、要するに2倍にしようとしています。一律1割負担から所得に応じて2割負担が導入されたとき「負担願える層に」と説明がありましたが、今でも年金が少ないからと必要なサービスを利用できない人も少なくないのです。マスコミがあまり伝えてくれない中ですが、なんとしても食い止めたい「改悪」です。力を貸してください。

(代表理事／小島美里)



## 総会記念上映 ～風は生きようという～

呼吸器から吹く風に乗れ、つながりあう人と人の物語

ご縁があり、ケアプランえんで働く機会を頂きました。ケアマネとして仕事を始める前に、この映画と出会えたことは何よりも幸運です。病気や障害があっても、ふつうに暮らし、自分自身の人生を当たり前に送くれる社会になるために、私たちには何ができ、何をしなければいけないのか？最初に頂いた問題提起になりました。折に触れ、考えていきたいと思います。

映画の中で、ひととき存在感を放つ海老原さん。重度の障がいの一つの個性と受け止め、常に自分らしく生きています。人工呼吸器と車椅子は身体の一部。彼女の傍らには、常に介助者が寄り添い、ふつうに仕事をし暮らしています。同じ障がいをもつ仲間の悩みに耳を傾け、地域の子どもたちにもあるがままの姿を伝え、人工呼吸器の普及に奮闘する彼女の姿に、生きる姿勢に、どれだけ多くの人が勇気づけられ、生きる力をもらったことでしょうか。今に至るまでには、沢山の苦労や困難、葛藤や孤立感など…あったと想像します。個々の力だけでは、変えられない社会でも、一緒に社会を良くしたいと思う仲間が増えれば、社会は変わるかもしれません。これからも、彼女の活躍にエールを送り続けたいと思います。

もしも、自分の子どもに病気や障がいがあったら？ 私は親として、どう育てるだろう。主演の一人、ご両親と優太郎君が人生の岐路に立ち思い悩む姿に、私自身も自問自答してしまいました。リクライニング式車椅子で中学に通い、友達とのコミュニケーションは難しくても、学校という環境に身をおくことで、彼の人生は大きく輝きます。いつか、必ず一緒に学んだ日々が、それぞれの生きる糧になると信じます。優太郎君は、夜間高校に無事合格し、新たな一步を踏み出しました。彼の未来が、自身の望む生き方になっていますよう…接に願います。

誰もが、映画の主演者のように生きられるわけではありません。居場所をなくし、外にも出れず、生きづらさの中で苦しんでいる人もいるはずです。これから出会う人たちに対し、真摯に向き合い望みたい。暮らしネット・えんの目指す「高齢になっても、障がいがあっても、この街で暮らし続けるために」、まずは一人前のケアマネめざし日々精進して参ります。

(ケアプランえん／川村はるみ)



## えんのスタッフとの交わりから感じていること

堀ノ内病院地域医療センター長・副院長

堀越洋一（暮らしネット・えん理事）

昨年度はえんの方々と交わる機会が増えました。そうした交わりを得た方々から感じているのは、えんのスタッフは、ひととの関わりの過程でご自身の心をずいぶん使っているということです。相手の喜びや苦労を自分ごととしている、正直に人の死を恐れている（わかったふりをしていない）、人と触れ合う体験を喜びつつも、その人の変化に一喜一憂している、などです。こうした印象を私なりに一言で表すと「人間的」であるということです。考えてみれば、えんはNPO ですからその構成員が人間的であろうとするのは本来のことなのかもしれません。もしかしたら、えんというNPO で働くことを選ぶときに、人間らしくある、とか、自分らしくある、という思いがあったのかなとも想像しています。

具体的なエピソードをふたつご紹介します。

「ヘルパーさんたちが『地域で共に』を大切にしているのはなぜですか」と問うたら「私たちも同じ地域に住んでいます。だから利用者との関わりは介護を通してだけでなく、季節の行事も災害時の備えも人ごとではなく、えんだけのことでもなく、地域で共に、なのです。」この答えを聞いて、「地域で共に」はキャッチフレーズでなく、一人ひとりに生きられている言葉なんだと腑に落ちました。このときも、人間らしくあること、を思いました。

若年発症の認知症の方が示した紙片をえんの方が分かち合ってくれました。「①これからどうなるのか？ ②これからどうしたら良いか？ ③これからどうするか？」。答えるのが難しいこれらの問いを、「共に考えましょう」と誘ってくれる姿勢は、いかにもえんらしい。こんな風にして私は少しずつ、いつの間にかえんとの関わりを深めていることに気づいています。



えんの庭の花



6月16日第17回定例総会



## 人が少しずつ重なって暮らしていけるような社会

～えん監事退任にあたって～

NPO 法人ハンズオン埼玉 西川正

17年前、2002年のサッカーワールドカップでの日本戦が行われているその最中に、夜な夜な、当時のスタッフ、役員 みなさんに、NPO法の説明をさせていただいたことを昨日のことにように思い出します。それ以来のご縁でした。

ほとんど何もしてこなかったのも、心苦しい限りです。とはいえ、監事が活躍する場面は、組織にとっては危機的な状況を示しますので、その意味で、これまで、えんはともすばらしい運営をしてこられたということになります (^)/。理事、スタッフ、ボランティア、そして利用者みなさんが、それぞれの立場で、また、同じまちに住む人として、努力を積み重ねてこられた結果です。

1998年に制定されたNPO法は「市民の自由な社会貢献活動を推進する」ことをめざし、市民が地域でさまざまな活動・事業を団体として展開していけるように法人格を付与することを目的とした法律でした。まさに、えんのような組織がたくさんこの日本の社会に生まれてほしいということをお願いしてつくられたものです。(日本社会全体の実態は、厳しいものがありますが)

数年前の総会でお聞きした事業の報告が印象に残っています。まどかのスタッフの方の報告でした。「隣接する住宅の方から『小学校に入った子どもに、親が居ないときに何かあったら、“まどか”に行くのよ、と言ってあるのでよろしく』と声をかけられた。近隣との関係を大切にしてきたことが少し実ってきたようで、たいへんうれしかった」「近隣の子どもたちが、鍵をもってなくて家に入れないうちなど、まどかに来て、お年寄り折り紙をしていたりします」。事業規模が数億円になった今も、えんのみなさんが何を目指しているのか、何を喜びと感じているのか、胸にしっくりと落ちました。

現代はシステムで動く社会で、意識しなければ、人が人とかかわることはできません。便利になればなるほど、システムが整えば整うほど、人は孤立していきます。ケアという営みを基盤にしつつ、日常的に人が少しずつ重なって暮らしていけるようにしていかなければ、人々の幸せはこないと思います。その新しい暮らしづくりの、最先端の試みが、えんのみなさんの日々の活動なのだと思います。

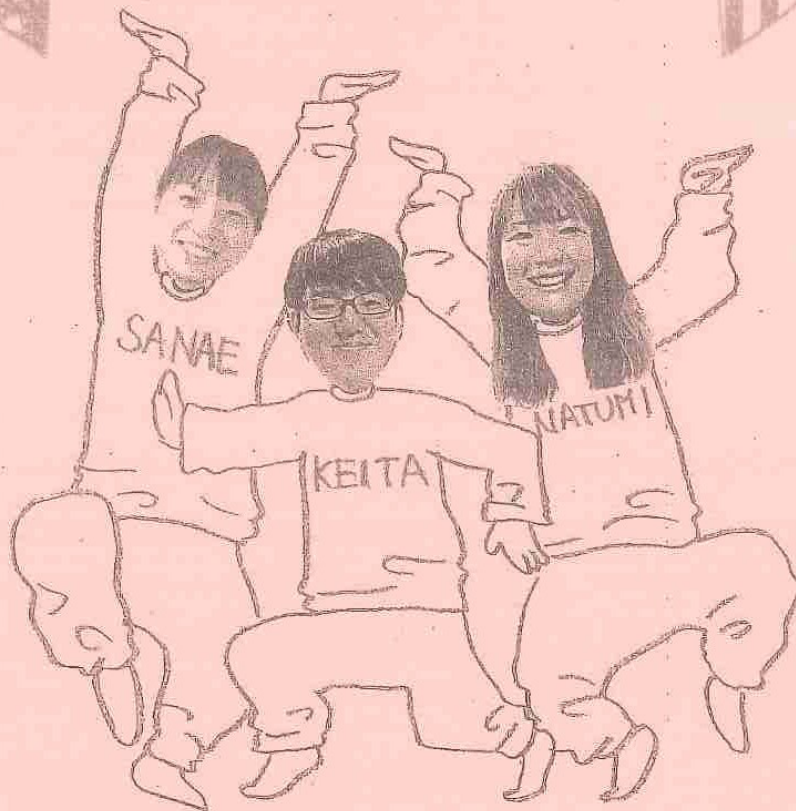
教えていただくことばかりの17年でした。ありがとうございました。えんのますますの発展と、えんにかかわるみなさんのこれからの幸せを祈っています。またご縁がありましたら一緒させていただけたらと思います。

追記: 焼いも、ぜひまた今年もよろしくおねがいたします。お芋お送りしますので!

(「ヤキイモタイム」は西川さんが理事をされているハンズオン埼玉の呼びかけで始まりました)



# 新人紹介



1月の下旬からお世話になっています。訪問の経験は今までなかった為、初心に戻り利用者さんの気持ちを聞きながらケアに入るよう心がけています。まだまだ未熟な為、いたらない所が沢山あり、日々利用者さんから勉強させてもらっています。今後も頑張ります。

さかまきさなえ  
酒巻真衣 (ケアサポートえん・多機能ホームまどか 勤務)

新人職員、介護福祉士の和知佳汰です。「やってやる」という気持ちで、どんなことも挑戦していきたいと思っています。「優しい介護」を心がけ幸せになってもらえる支援をしていきたいです。

わちけいた  
和知佳汰 (ケアサポートえん・多機能ホームまどか 勤務)

はじめまして。木島奈津美です。初めてのことばかりですが、皆様に指導してもらいながら、日々笑顔を決やさず、一生懸命頑張ります。どうぞよろしくをお願いします。

きしまなつみ  
木島奈津美 (ケアサポートえん勤務)





## アメリカ合衆国ポートランド介護事情②

～米国に優れたケアプログラムがあった！～

昨年秋のポートランド（アメリカ合衆国）研修報告の続きです。

医療保険は個人加入の民間保険が中心の米国ですが、公費医療制度（メディケア＝高齢者対象、メディケイド＝低所得層対象）を使った高齢者の医療と介護の切れ目ないケアプログラムがあります。PACE（A Program of All-inclusive Care for Elderly）と呼ばれるもので、今回このプログラムを行う Providence Elder Place を訪問しました。「年をとっても心身に不自由があっても、可能な限り住み慣れた家で暮らし、人生を終えるのがよい」と、まるでえんの理念のような理念を掲げ、施設や長期療養型医療機関が適当と認定された高齢者が対象。基本的に医師・看護師・管理栄養士・理学療法士・作業療法士・介護士・ソーシャルワーカー等から構成されたチームにより提供されますが、見学先では言語聴覚士や、薬剤師、精神科医、牧師も配置されていました。複数の診療科・リハビリが揃いワンストップで必要な医療やケアが受けられ、移動支援や自宅へのヘルパーも必要に応じて柔軟に提供されています。自宅で家族介護者がいる場合は、介護離職を防ぐため、デイケアの参加日を増やしているそうです。ここでは提供できない症状の場合は責任を持って必要な医療につなぎ、一般の人より長く生きられることが数字で示され、医療コストを抑える効果も上げています。意志の確認が困難な人の9割に法的な代理人がついているのが日本との大きな違いでしょう。また、さまざまなプログラムが用意されていても本人が望まなければ強制されないのも魅力です。見学先には牧師が配置されることからわかるように、『死生観』にも踏み込み、86%の参加者が自宅（医療機関以外の施設含む）で亡くなっています。費用は一人当たり平均月額3,000～4,000ドルですが、対象者の99%が低所得者であり、ほとんどが公費から支払われています。対象者が限定され、提供先は少ないのですが、このような制度があることに驚きました。もっと知られて良い、日本でも参考にしたい制度です。

また、日本のグループホームのような小規模ホーム（フォスターホーム）があり、その介護職員は多くが中南米からの移民だと知りました。移民に厳しいトランプ政権の政策が、もともと家族が殺害されるような過酷な状況の中、命がけで逃げてきてこの職についた人々を追い詰めているといます。残念ながら今回はそうしたホームは見られませんでした。同じ介護の現場にいる人々が、安心して仕事に携われるような国であってほしいと心から願っています。

小島美里

※アメリカ合衆国ポートランド介護事情①は、えん通信No.59に掲載しています。





## みんなのコンサートのお知らせ 尺八と楊琴（仮）



日時 12月1日（日） 新座市立中央公民館

13:30～開場 14:00～開演

演奏者 尺八 加藤秀和（かとう ひでかず）

楊琴 足本みよ子（あしもと みよこ）

演奏曲（予定）／賽馬、アルハンブラの思い出、愛の讃歌、雪の華 他



揚琴＝中国の楽器。100数十本の弦を2本の竹製のバチで叩いて演奏する。繊細で余韻の長い響きと揺らぎが特徴。

### ～グループリビングえんの森～入居者募集中！！

バリアフリー、大きな浴室、栄養豊かなあたたかい食事、同じ屋根の下に暮らして声をかけ合える仲間。高齢期を迎えて一人暮らしが不安になる条件をクリアし、できる範囲での役割分担を受けもちながら地域住民として暮らす。いきいきと毎日の生活を楽しむ、「自宅に暮らす」日々をつくりあう住まいです。

※お気軽にお問合せください

担当／小島・真中

## だれでも食堂

～月イチと、日曜のおひるごはんを  
みんなで作って、みんなで食べよう～

毎月最終日曜日 11:00～15:00（食事は 12:00 から）

グループリビングえんの森にて行います。

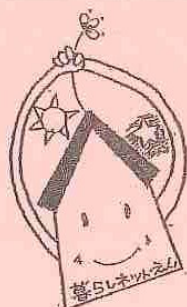
材料費：こども無料・おとな 300 円



### 地域で暮らし続けていくために 2019年度新規・継続会員募集中！

正会員：1000 円 賛助会員：3000 円

※入会を希望される方は、事務局までご連絡ください。



■ 編集・発行 認定NPO法人暮らしネット・えん

〒352-0033 埼玉県新座市石神2-1-4

電話：048-480-4150 FAX：048-201-1311

Eメール：npoenn@jcom.home.ne.jp

ホームページ：<https://npoenn.com/>